

社会医療法人ペガサス ペガサスリハビリTimes



自宅や施設で 嚥下の悩みありませんか？

せつしょくえんげ
摂食嚥下とは…

食べ物を認識してから、
口を經由して胃の中へ送り込む
一連の動作のことです。

普通食に
近いものを
食べたい

食事中
むせる

摂取量が
低下して
いる

少しでも
口から
食べたい



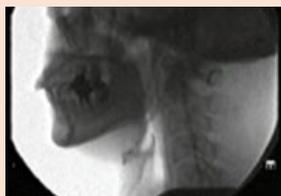
食物を
のどに
詰めた

摂取方法の
変更を
したい

食物を
吐き出して
しまう

脳卒中などの病気になると、ものを「飲み込む」ことができなくなる場合があります。食べ物が気管に入って肺炎になってしまうこともあります。こうした方々に対して「おいしく、安全に食べる」を目指すリハビリテーションを**摂食嚥下リハビリテーション**と呼び、言語聴覚士を中心に実施しています。

リハビリ専門医による評価



嚥下造影検査(VFSS)



嚥下内視鏡検査(VE)



在宅患者の
嚥下造影・嚥下内視鏡検査
食事が食べられないまま
退院した方にも、
継続して検査、訓練を
行なっています。



食事に関する口・咽喉の
動きを診察・検査を行い、
摂食嚥下の評価をします



ペガサスでは退院後の
摂食嚥下評価を行っています。
リハビリ専門医、言語聴覚士、
管理栄養士が評価します！

お問合せ先
社会医療法人ペガサス
馬場記念病院 リハビリテーション部
〒592-8555
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
☎ 072-265-9196
✉ pegasus.ojt@gmail.com

裏面へ→

入院中の方だけでなく、退院後のフォローアップや
外来患者さまから多くご相談いただき、
食のQOL(生活の質)の向上や誤嚥性肺炎を予防する
取り組みを行っております！！



入院早期から
チームアプローチ

嚥下多職種合同カンファレンス

言語聴覚士に加えて、リハビリ専門医、看護師、
歯科衛生士、管理栄養士、など多職種で
患者さんの状態を確認し、食事形態や食事方法を検討します。

ペガサスグループでは23名の言語聴覚士が在籍！！

- ・馬場記念病院入院時、何も食べることができなかった3割以上の方が退院時に何らかのものを食べられるようになっています。
- ・入院初日から退院後の在宅生活まで幅広く支援しています。



保育園を訪問し、 小児の摂食嚥下を支援

医療的ケアが必要なお子さんなど、
飲んだり食べたりすることが難しい
お子さんがいます。
保育士さんに食事介助方法等の
指導する訪問支援を行っています。



一人ひとりに合わせた食事形態のご提案をしています！

馬場記念病院栄養部が考案したレシピをクックパッドで紹介しています
トロミ食もご紹介しているのでご活用ください！

クックパッドは
こちらから→



トロミ食から普通食へ！



むせない食事に変更！